

JFA U18 審判員研修会 参加報告

兵庫協会 サッカー3級審判員 横田 流夢

目次

- 1.はじめに
- 2.大会概要
- 3.研修会テーマ
- 4.担当試合振り返り
- 5.インターハイ決勝観戦
- 6.Work shop
- 7.国際審判員からの話
- 8.最後に

1.はじめに

7月31日～8月3日の4日間、福島県のJヴィレッジで行われたJFA U18 審判員研修会の参加報告をさせていただきます。推薦していただいた関西サッカー協会ならびに兵庫県サッカー協会、姫路サッカー協会の皆様に感謝を申し上げますとともに、今回の研修会を開いていただいた日本サッカー協会の皆様、大会を円滑に運営していただいた大会関係者の皆様、全ての方々に感謝申し上げます。

2.大会概要

【大会名】第4回 Rookie Cup U-16 in J-VILLAGE

【開催地】福島県/ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ

【開催期間】2025年7月31日(木)～8月3日(日)

【背景】

・Jヴィレッジを拠点に固定開催されるインターハイの開催決定を記念し、2022年から開催。

【目的】

・本大会は、インターハイが開催される同時期に、その舞台となるJヴィレッジにてROOKIE (U16 / 高校1年生) 大会を開催することで、各チームがインターハイへ出場する意欲を高めるとともに、チーム強化や個々の成長の場となることを目指す。

3.研修会テーマ

- 気づき →「知る」「発見する」
- 学び → 気づきを得た上で、それをどう活かすかが「学び」に繋がる
- チャレンジ → 日常で経験できない「挑戦」の場

◎ON the pitch

Refereeing

技術の向上、サッカー理解、課題認識&克服、コンディショニング

◎OFF the pitch

生活の基本

コミュニケーション、自己管理、気遣い&心遣い、チーム活動・貢献

4.担当試合振り返り

〈1日目〉

2025年7月31日(木)14時キックオフ

会場：Jヴィレッジ P7

対戦：東北学院(宮城) vs 大津(熊本)

割当：主審 横田流夢 (兵庫)

副審1 山下漣 氏 (栃木)

インストラクター 渡辺典子 氏 (埼玉)

結果：2-2 (1-1、1-1)

【振り返り】

両チームともにチームとしても個々としてもレベルが高かったです。特にゴール前でのクオリティは高く、前半は事象を近くで見ようとして選手との距離が近くなりすぎることがありました。その際に、角度をとって遠すぎず近すぎずにならないように適度な距離を保ってポジションをとることを意識して後半に挑みました。

サイド深い位置ではポジションが入りすぎてカウンターや次の動きに遅れることがありました。見る必要が無いと思ったときは次の動き出しを準備していくことが大事だと思いました。

東北学院のFWが身体が強く、その選手をある程度引っ張ったり持ったりしてもその選手の特徴を理解した上で簡単には笛を吹きませんでした。zoomでの事前研修会のときに球際や強度の部分を特に言われ、それを意識してできました。

ルール改正により今大会は「8秒ルール」を適用した。事前に「8秒ルール」の意図ややり方などを聞き、試合に挑みました。ハーフタイムに INS 渡辺 氏から8秒のカウントが早いとご指導していただきました。後半に行く前に時計を見ながらカウントの練習をし、自分が思っているよりもカウントを早く言っていることに気づくことができ、学びになりました。

【良かった点】

- ・ファウルの基準 ・アドバンテージ
- ・選手の特徴を理解

【課題】

- ・選手と適度な距離を保って角度をつける
- ・次の動き出しを考えてポジションをとる

〈2日目〉

2025年8月1日(金)9時キックオフ

会場：J ヴィレッジ P8

対戦：立正大湊南(島根) vs 松商学園(長野)

割当：主審 横田流夢 (兵庫)

副審1 神所朱海 氏 (山口)

インストラクター 新井智也 氏 (群馬)

結果：1-3 (1-1、0-2)

【振り返り】

両チームともにロングボールを多用し、走らされる試合展開となりました。サイドチェンジでロングボールが蹴られる際、ボールホルダーは見ているが、体の向きが悪く、受け手を見れていませんでした。その際に、ボールが出そうだと思う争点の場所を見つけて体の向きを作れたらいいと思いました。

ボールを保持しているチームがディフェンスラインでボールを回しているときに自分は歩いていることが多く、予測ができていてもどうしても次の動きに移りづらいので、常にジョグでポジションを修正しながら次の動きに移れるようにしたいです。

サイド深い位置では、ボールホルダーだけを見てしまって中の争点が見えないため、常にポストを視野に入れておくといいと試合後に INS 新井 氏にご指導していただきました。

【良かった点】

- ・ファウルの見極め

【課題】

- ・出し手と受け手を見る体の向き
- ・次の動きに合わせた動き

2025年8月1日(金)15時30分キックオフ※台風の影響で40分1本

会場：J ヴィレッジ P8

対戦：草津東(滋賀) vs 佐賀東(佐賀)

割当：主審 神所朱海 氏 (山口)

副審1 横田流夢 (兵庫)

インストラクター 新井智也 氏 (群馬)

結果：2-2

【振り返り】

雨の影響でボールや選手が滑りやすいピッチで、イレギュラーなことが多発しました。スライディングが思っているよりも伸びて、ボールにチャレンジしようとしているのが選手の足に入ったりしました。そのときの選手とのコミュニケーションを大事にしたいです。

足が速い選手が裏に抜けてくるときは予測してその選手よりも先に動き出さないといけないと思いました。

主審の神所 氏とは特にアイコンタクトをお互いに取りながら、協力してできました。

【良かった点】

- ・主審とのアイコンタクト
- ・タッチライン際の見極め

【課題】

- ・予期予測

〈3日目〉

2025年8月2日(土)16時50分キックオフ

会場：J ヴィレッジ P4

対戦：東北学院(宮城) vs 徳島市立(徳島)

割当：前半 後半

主審 山口瑞貴氏(高知) 主審 横田流夢(兵庫)

副審1 横田流夢(兵庫) 副審1 山口瑞貴氏(高知)

インストラクター 有田靖氏(福岡)

結果：2-3 (1-3、1-0)

【振り返り】

前半は副審でした。逆サイドからのコーナーキックのときにインスイングの低いボールがそのままゴールラインを割ってニアサイドのネットに当たったように見え、自分はゴールキックだと思い、シグナルをしました。しかし、攻撃側のチームは全員自陣に戻り、選手はゴールだと思っていました。主審の山口氏はゴールのシグナルをしていませんでした。最終的に2人で話し合い、ノーゴールでゴールキックにしました。試合後には見えている方がしっかり判定しようという話し合いをしました。

後半は主審をしました。反省点はコーナーキックのときのポジショニングが悪かったことと走るときに緩急が無かったことです。予測して先に動くのはいいが、走るスピードが一定であるため、必要な情報を見るために走るスピードを上げたりして緩急をつける必要がありました。

試合後には、INS 有田氏から予測して先に動くときに今よりも0.5秒早く動くといいたいとご指導していただきました。

【良かった点】

- ・出し手と受け手を見る動き
- ・ボールがタッチラインを出る際の副審に向けた小さなシグナル

【課題】

- ・ポジショニング
- ・緩急のある動き

〈4日目〉

2025年8月3日(日)9時キックオフ

会場：JヴィレッジP7

対戦：立正大湊南(島根) vs 佐賀東(佐賀)

割当：主審 菊谷剛貴氏(福井)

副審1 横田流夢(兵庫)

インストラクター 新井智也氏(群馬)

結果：3-3 (1-2、2-1)

【振り返り】

この試合は両チームにとってルーキーカップ最後の試合でとても気合が入っているのが試合前から分かりました。

その中で自分の副審サイドでの引っ張り合いの攻防でファウルサポートが出来ませんでした。最終的に主審の菊谷氏が笛を吹き、ファウルを取ったが自分の副審サイドで自分が主審を援助することができませんでした。

できたことは出し手と受け手を見ながら視野の確保をすることです。オフサイドの可能性が低く、受け手を見る必要がないと思ったときは出し手を直接視野で見て、自分の副審サイドでファウルがあったときはフラッグアップ。受け手が動き出してオフサイドの可能性があったときは、出し手を間接視野で、受け手を直接視野で見ることができました。

【良かった点】

- ・視野の確保

【課題】

- ・ファウルサポート

5.インターハイ決勝観戦

令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会 男子 決勝戦

2025年8月2日(土)12時30分キックオフ

会場：Jヴィレッジスタジアム

対戦：大津(熊本) vs 神村学園(鹿児島)

結果：2-2 PK6-7 (0-0、1-1、延0-1、1-0)

審判団：主審 平塚将哲氏

副審1 北沢倫章氏

副審2 本多文哉氏

第4審判 佐藤宥氏



○1 級との違い(R & AR)

主審の方は全体的に無駄な動きがなくスムーズでした。予期予測がしっかりしており、ロングボールが蹴られる際にも先に動き出していました。また、ボールホルダーと受け手である争点を見るとききの首を振るタイミングが良かったです。

副審の方は頭部のファウルサポートをしたときの対応が素晴らしかったです。観客にも伝わるフラッグアップでした。さらに、その際に主審が交代の手続きをしているときにフリーキックの 10 ヤード(9.15m)を副審が管理していました。

審判団が共通して意識していると思ったことは、「周りから見られる立ち振る舞い」であったことです。常に姿勢が良く、シグナルも体に対して一直線で綺麗でした。

このようなことを自分の「学び」にし、参考にしようと思いました。

6.Work shop

ホテルに帰り、夕食をとった後に Work shop をしました。

自分と他の審判員の「できたこと」、「新たな気づき」、「明日への課題」を班で共有し、最後は各班発表しました。

メインのソックスよりもアンダーソックスの方が上にきている選手がいたという安全面についての話をする班もありました。3 日間の Work shop で話に出てきたことが多かったのは「動きとポジショニング」です。常に予期予測をし、より良い判定をするには全てにおいてポジショニングが大事だということです。出し手と受け手と自分とでトライアングルを作る体の向きが大事だという話をしました。

試合をこなすだけでなく、審判員同士でしっかりと話し合うこともまた 1 つのスキルアップに繋がると思いました。



7.国際審判員からの話

8 月 2 日(土)の午前中の試合が台風の影響により中止となり、同じ J ヴィレッジで J1 担当審判員の方々が体力テストのために集まっていたところ、急遽国際審判員の西橋 氏と笠原 氏から約 1 時間程話をしていただけになりました。

西橋 氏からはサッカーには何種類の人に関わっているのかというテーマで話をいただきました。答えとしては約 40 種類の人に関わっているということを知りました。例えば、ファン・サポーター、監督、審判員、ホペイロ、試合の実況者、警備員、グラウンド整備の人など様々なサッカーへの関わり方があります。これらの全ての人に



感謝をして、試合を行わなければなりません。まずは選手が満足して、その次に観客が満足して、最後にレフェリーも満足するというのが1番の理想です。

笠原 氏からは夢についてのテーマで話をいただきました。まずは大きな夢を持つということです。出来ない人は、できない理由を探す、自分は無理だと言い切る。出来る人は、できる理由を探す、自分ならできると言う。マインド、気持ちのことについて話をいただきました。

国際審判員のお二方に質問などもして、とても貴重な時間を過ごさせていただきました。

8.最後に

今回、初めて、JFA が主催する U18 審判員研修会に参加させていただきました。最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、全国各地から集まった 26 名の素晴らしい審判員とともに 4 日間を過ごし、とても充実した 4 日間になりました。

今回の研修会のテーマである「気づき」、「学び」、「チャレンジ」をこの 4 日間意識して取り組んだことで、試合を通して成長することが出来ましたし、試合後のインストラクターの方々のありがたいお言葉、ご指導のおかげで毎試合のレフェリング、動きやポジショニングが良くなっていったと感じております。

今回の研修会でとても貴重な経験をさせていただき、今後の関西、兵庫での活動に少しでも貢献し、地域のサッカーを支えていく存在になれるように精進して参ります。

最後になりますが、今回の研修会に推薦していただいた関西サッカー協会ならびに兵庫県サッカー協会、姫路サッカー協会の皆様、名木 氏、高橋 氏、村山 氏をはじめとする日本サッカー協会の皆様、大会を円滑に運営していただいた大会関係者の皆様、全ての方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

